

めざす生徒像

『智仁勇 未来を拓く生徒』
 「智」 深く考え、判断できる生徒
 「仁」 思いやりのある生徒
 「勇」 自ら行動できる生徒

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
学校重点項目 (学校で設定)	生徒指導 規律ある行動・ 自己有用感の醸成	④を90%以上にする。	① 学校では自分は大切にされている。							
			② 学校にいると安心する。							
			③ 学校では自分が役立っていると感じる。							
			④ 学校が楽しい。							
			⑤ みんなで何かをするのは楽しい。							
			集計							
重点項目 石川県共通	働き方や 業務の改善	①について100%にする。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。							
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができています。							
			③ 月1回定時退校ができた。							
			④ 計画的に休養をとることができた。							
			集計							
小松市共通重点項目	学校研究	すべての項目で90%以上にする。	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。							
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。							
			集計							
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①～⑤の生徒のアンケートの割合を90%以上にする。	① 生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
				② 生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。						
				③ 生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
				④ 生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。						
				⑤ 生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
				⑥ 生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。						
				⑦ 生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。						
				⑧ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行っている						
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①、②の平均が中間85%以上 年度末90%以上にする。	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。						
				② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。						
				③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。						
				④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)						
集計										
学力の向上	家庭学習	①の項目で80%以上にする。 ④の項目で80%以上にする。	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。							
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。							
			③ 自分で計画を立てて勉強している。							
			④ 1週間に10時間以上を目標にして達成することができている。							
			集計							